

【原著論文】

保育カンファレンスにおける保育記録の活用のあり方

島田知和¹ 阿南寿美子² 田中 洋³

A study of the practical use of the photographic records in the childcare conferences
Tomokazu SHIMADA Sumiko ANAMI Hiroshi TANAKA

【要 旨】

本研究では、保育者へのインタビューを通して、記録を取ることのどこに困難さを感じているのかを明らかにし、記録を取ることに對する意識がどのように変容するのかについて検証を行うことを目的としている。SCATを用いた分析の結果、撮影による記録に意義を感じているが、保育を行いながら記録を撮ることによって、子どもと関わりにくくなること、撮影に對する義務感等が生じていることが明らかになった。

今後の展望として、継続的な撮影記録、保育カンファレンスを実施していくためには、園全体による勤務体制など組織的な整備が求められていることが明らかになった。保育者が負担感や義務感を感じずに、保育の質の向上に結びつく記録方法、保育カンファレンスのあり方について今後さらに検討していき、撮影記録を用いた保育カンファレンスを行うことによって保育者等が自らの保育を省察し、子どもの育ちを支えるための保育計画の改善を図るために、園内における組織の整備のあり方の検討が求められると言える。

【キーワード】

保育カンファレンス 撮影による保育記録 SCAT(Steps for Coding and Theorization)

I. 問題と目的

2017年に告示された幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、幼児教育を行う施設が共有すべき事項として、「育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示された。保育者には子どもが遊びを通してこれらの力を身につけることが出来るように保育を展開することが求められている。また、保育所保育指針第1章総則3保育の計画及び評価には「保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して～（中略）～その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない」こと、また「自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための課題を明確にする」ことが示されており、日々の保育実践を振り返ることによって、保育内容を評価し、評価を踏まえた計画の改善を行うことが必要である。さらに、保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会（第7回）では、保育所における自己評価ガイドライン【改定案】（試案）（2019）の中で、「保育内容等の評価に際して、様々な経験や専門性を有する人々とともに保育を振り返り、意見を交わすことによって、保育の改善・充

1 別府大学短期大学部

2 西南女学院大学短期大学部

3 大分大学教育学部

実に向けた気づきや発想につながる新たな視点と知識・情報を得ることができる」と述べられている。このように保育の評価を行うことを通して、保育の質の向上を検討する中で、保育者の記録をもとにした保育カンファレンスの有用性が注目されている。香曾我部（2014）は、保育カンファレンスで重要なのはその方法や効果ではなく、保育者同士が話し合う場を作り、最終的に「保育者自身の知の再構築」を目指すものでなければならないと述べているが、現場の保育者からは日々の保育を行う中で振り返りの時間を持つことの難しさや負担感、保育カンファレンスへの疑問などを耳にすることがある。また、保育カンファレンスに関する先行研究は多くみられるが、当事者となる保育者がカンファレンスに用いる記録を作成する困難さに目を向け、個別に捉えている研究は少ない。そのうちのひとつとして吉村（2012）は、「エピソード記述」において背景が「書けない」と困惑する保育者に対して、語りという手段が一つの方法であることを示している。そこで本研究では、「書く」ことに対して苦手意識を持っている保育者でも、写真を撮ることだけであれば負担感が少ないのではないかと考え、保育者に保育の中で気になった場面を写真として記録してもらうこととし、場면을記録した背景についてインタビューを行い、記録を撮ることのどこに困難さを感じているのかを明らかにすることを目的とする。なお、インタビューにより得られた言語記録のデータ分析にあたっては、KJ法やM-GTAなど様々な方法があるが、比較的小規模の質的データ分析にも有効であるSCAT（大谷,2007,2011）を用いることとした。そして保育カンファレンスを行うことによって、記録を撮ることに対する意識がどのように変容するのか検証を行う。

II. 方法

1. 保育カンファレンスの概要

実施日：第1回目 2019年12月6日 第2回目 2020年1月10日

実施時間：午睡時間を利用した13時30分から14時頃までのおよそ30分間

調査協力園：大分市内A保育園

保育カンファレンス参加者：園長及び保育者2名（3歳児クラス担任）、研究者3名（1月10日は2名のみ参加）

筆者らは2018年10月より月2～3回程度の保育観察を行い、保育者及び子どもとのラポールを形成した。その後、保育者へ記録の意図、撮影記録の観点等を説明する機会を設け、写真撮影を依頼した。保育者が撮影した数枚の写真に対して、「なぜこの写真を撮影したのか」、「写真に関する子どもたちのエピソード」等を文章などの記録を用いず、写真のみによる記録をもとに口頭による説明を依頼し、説明の内容から保育カンファレンスを行った。

保育カンファレンスでは写真を撮影した保育者に対して、「記録を撮ることの難しさ」や「記録を撮るよう意識して変わったこと」等について半構造化インタビューを行った。

2. データの分析

インタビュー後、ICレコーダーに録音したデータから逐語録を作成し、SCAT（Steps for Coding and Theorization）（大谷, 2007, 2011）を用いて分析を行った。

SCATとは、①データの中の着目すべき語句、②それを言いかえるためのデータ外の語句、③それを説明するための語句、④そこから浮き上がるテーマ・構成概念の順にコードを考えて付していく4ステップのコーディングと、④のテーマ・構成概念を紡いでストーリーラインを記述し、そこから理論を記述する手続きとからなる分析手法である（大谷, 2011）。SCATでは4つのステップを明示化し、なおかつ段階的に記述することで、分析過程を容易に振り返られることが特徴であり、1つのケースのデータなどの小規模なものでも分析が可能のため、本研究ではこの手法を用いた。

さらに、SCATによる4つのステップによって得られたストーリーラインから理論記述を行い、保育者が写真撮影による記録を行う上で、どのような負担や困難さを感じ、どのように意識が変容していくかについて考察を行った。

III. 結果及び考察

SCATによる分析の結果の一部を保育カンファレンスの実施日ごとに表1、表2に示した。それに基づき得られたストーリーラインを用いて理論記述をし、分析・考察を行った。

表1. 2019年12月6日のSCATによる分析結果

番号	発話者	テキスト	①テキスト中の注目すべき語句	②テキスト中の語句の言い換え	③を説明するようなテキスト 外の概念	④テーマ・構成員 (前後や全体の文脈を考慮して)	⑤疑問・課題
1	質問者A	今回写真を撮るとなっていたか大変でしたか?					
2	保育者A	「あっ」で思った瞬間に「ぼっ」で撮るのが何回か逃している。余裕がある時に撮れている。見守り体制がある時に撮れた写真がこれなんです。今日も各鉄棒、アスレチック、滑り台に一人ずつついていたので、私もこの様子にずっとつづいてきて、写真を撮ることができた。「あっ」で思った瞬間に「ぼっ」で撮るのがなかなか実行できない。	・何回か逃している ・余裕がある時に撮れている ・見守り体制 ・「あっ」で思った瞬間に「ぼっ」で撮るのがなかなか実行できない	・時間的、精神的なゆとり ・十分な職員配置 ・保育中に撮影する難しさ	・撮影ができる条件 ・撮影を困難にする制約	限られた職員配置の中では、保育中に撮影することは難しい。時間的、体制上のゆとりがある場合は撮影ができています。	
3	園長	難しいよな。今日何かあるかもと思って、もう（カメラを）持ち出しておく、撮るタイミングとしてはどう？取りに戻っていたら間に合わないよな。					
4	保育者A	毎日、カメラはポケットに入れるよう意識しているが、1枚も撮れなかった時もある					
5	質問者A	負担でしたか?					
6	保育者A	それを意識していたら、子どもたちと十分に遊べなかったり、私がありました。何か起こりそうと思って、見ていたら、「尻尾取りゲームしよう」とかこっちの方から、遊びたいけど、何か起こりそうで写真を撮れない。	・子どもたちと十分に遊べなかったり ・何か起こりそうと思って、見ていたら、 ・遊びたいけど、何か起こりそうで写真を撮れない	・写真を撮ろうと意識すると子どもたちと十分に遊べない ・何か起こりそうという期待感	・子どもの遊びを見取る視点の変化 ・子どもとの関わり、遊びと撮影の両立の難しさ	撮影を意識することによって、子どもとの関わりがなくなる。子どもを見取る視点に影響があるが、子どもと関わりながら撮影することはまだ難しいか	具体的などこに難しさを感じているか
7	保育者A	あとこういう印刷はしたんですけど、これも1回はクラスの先生と話し合いたいんですけど、その時間もあまり取れない	・1回はクラスの先生と話し合いたい ・時間もあまり取れない	・クラスの保育者間で情報共有 ・保育体制による共有の難しさ	・保育カンファレンスを行う上で、保育者間の情報共有 ・保育カンファレンスにクラス担任全員は参加できない	保育カンファレンスを行う上で、クラス担任間で情報を共有したいが、保育体制等によって難しい	
8	質問者A	共有できたら面白いな気持ちはある？					
9	保育者A	カンファレンスに持ち出す前に、クラスで話し合いたかったなという気持ちはある					
10	園長	週案のクラス会議を設けてねと、昨日話をしたけど、この時に気になる子の姿とか出してもいいかもしれんね。					
11	質問者A	これを撮ろうとすることで、自分の保育の見方とか変化はありましたか？心が変わったことはありますか？					
12	保育者A	記録を撮ることはすごくいいことだなと思いました。記録取ったら、この時あやちゃってしたと振り返りをお家とかでもできる。大変なんですけど、記録を撮って話すことで振り返りながら、新しい方法とか、新しい保育の仕方が見つかるかなと思いました。	・記録を撮ることはすごくいいこと ・記録を撮って話すこと ・振り返り ・新しい方法 ・新しい保育の仕方が見つかる	・記録を撮ることの効果、意義 ・記録を振り返ることによる次の保育方法の考案	・記録を撮ることによる保育観の変化 ・保育の質の向上	記録を撮ることによる保育の質向上への効果、影響を感じている	
13	質問者A	今まで意識して、カメラで撮ることはなかったと思うんですけど、その時と比べて、そういう気持ちも少し出てきた？					
14	保育者A	今まではカメラを持っていても、アルバムに載せたいから写真を撮っていたんですけど、そういう見方で撮るのではなくて、あ、面白いな、こういう時はどうしたらいいかなっていう時に撮ったら、次の保育とかにも生かされたりできるかなと思います。	・アルバムに載せたいから写真を撮っていた ・あ、面白いな、こういう時はどうしたらいいかな ・次の保育に生かされたりできる	・アルバム用の写真を撮っていた ・子どもの興味関心への気づき ・次の保育への見直し	・写真撮影への意識の変化 ・子どもを見取る視点の変化 ・記録と保育考案の関係への気づき	アルバム用の写真撮影から、子どもの姿の見取りや、保育考案への写真の効果、意義を感じている。	
15	質問者A	負担はかけてしまっているが、絶対無理ではないという感じではないですか？					
16	質問者B	撮る負担と、撮った後の振り返り、どっちが自分にとってたことになるかと言うことがあるんじゃないかな？					
17	園長	これだけ毎日行事やらなんやらあると、バツとすぎちゃうけど、こうやって撮りためておくと、残っていったり、振り返りのツールの一つになりますよね。					
18	保育者A	絶対無理と言うわけではないけど、、、					
19	質問者B	今日も写真を印刷できてないけど、撮ったということがあるから、先生も話ができますもんね。思い出せますよね。撮ったことで、前と後ろがあるから話ができるとまた違うのかな。これだけだったら、縦に並んでるの、いや、コの字になって、子どもの遊びは発展した。それで私もあれ見た、これ見たよと話ができる。					

表2. 2020年1月10日のSCATによる分析結果

番号	発話者	テキスト	①テキスト中の注目すべき語句	②テキスト中の語句の言い換え	③左を説明するようなテキスト外の概念	④テーマ・構成概念 (前後や全体の文脈を考慮して)	⑤疑問・課題
1	質問者A	今回写真を撮っていただき、前回フープの面白い写真があり、何枚か気になりながら撮っていたと思うのですが、前回おっしゃったのが、子どもたちの遊びを見ながら、それを子どもたちの遊びから遊びを発展させるようなことはありましたか？意識されたことはありますか？					
2	保育者A	遊びが発展できるように意識はしてんですけど、なかなか実践できていないのが現状です。	遊びが発展できるように意識はしていた ・なかなか実践できていない	・遊びの発展への意識 ・実践することの難しさ	・写真による記録の保育への活用 ・活用の難しさ	・写真の活用について、遊びの発展への可能性は感じているが、実際に行うことは難しい	
3	質問者A	どこらへんが難しかったですか？					
4	保育者A	尻尾とりゲームとかが、流行っていて、お外に出た時に、尻尾とりゲームをしようと言って、私が尻尾とりゲームをずつとしていたので、どうやって発展させようかなと考えて、それから生活発表会のオペレッタで三匹の子ぶたをしているが、それは尻尾とりゲームなんですけど、鬼をオオカミさんにしたりとか、そうやって繋がっている。尻尾とりゲームを発展させていったりとかはできたが、おもちゃとかフラフープとかでこう発展させていくのは少し難しい。	どうやって発展させようかなと考慮して、それから生活発表会のオペレッタで三匹の子ぶたをしているが、それは尻尾とりゲームなんですけど、鬼をオオカミさんにしたりとか、そうやって繋がっている ・生活発表会への発展 ・おもちゃ、フラフープ等の環境構成を通した発展への難しさ	・「日常の遊び」から「行事」への発展 ・「日常の遊び」から「日常の遊び」への発展の難しさ	・日常の写真記録を用いた、遊びの発展は難しいが、遊びの発展について検討、意識をしているため、生活発表会等の行事への発展へつながった	活用を難しくしている原因は何か(保育体制など)	
5	質問者A	そういうふうに考えていこうという意識をずつと持たれているんですね。					
18	質問者A	まだまだ大変ですかね？撮るタイミングですかね。					
19	保育者A	あとタイミングと、カメラを持っておかないと思うんですけど、つい忘れちゃったりとか、..	カメラを持っておかないと思うんですけど、つい忘れちゃったりとか、..	・カメラを持つことへの意識	・カメラを持つことへの常態化の難しさ	・カメラを持つことへの意識はしているが、保育の忙しさからカメラを持つことを忘れてしまう。	
20	質問者A	子どもたちも先生と一緒に遊びたいですね。					
25	質問者B	最近撮られ慣れたのか、子どもがチェックしますからね。いい写真かどうかチェックされますもんね。					
26	保育者A	子どもたちと思い切って遊びたいんですけど、カメラを持っていない方が気にせず思い切り遊べる	・カメラを持っていない方が気にせず思い切り遊べる	・カメラを持つことによる子どもとの関わりへの影響	・カメラを持つこと、写真撮影への意識、義務感	カメラを持つこと、写真記録を撮ることへの義務感に思いが生じるのか、子どもとの関わりへの影響がある	
27	質問者B	カメラを持っていると撮らなきゃと思ってしまうんですね。					
28	質問者A	今遊んでいるこの場面を撮って思うこともありますよね。今この場面を誰かに撮って欲しいとかありますよね。すごく今いいことやってるけど、自分がいるから成り立ってる環境とかあるかもしれない。					
29	保育者A	そこで抜けて、パツと撮っても子どもたちの遊びが止まってしまう。					
30	園長	4、5歳児だったら抜けていいかもしれんけどね。					
31	保育者A	今日も尻尾とりゲームをしようと言われても毎日のように同じメンバーで尻尾とりゲームしているんですけど、遊びたいという他の友だちがいたので、今日はちょっと尻尾とりゲームをお休みにして、Sちゃんとか来て来てと泣いたりしていたので、今日はSちゃんと関わろうと思って、Sちゃんを中心に遊んでいたら、他の友だちもどんどん興味を示して、集まって来て、今日はカメラを持っていないなかったので、Sちゃんと十分に思い切り関わられたかなと思って、Sちゃんも嬉しそうにニコニコで遊んでいました。	・今日はカメラを持っていなかったもので、Sちゃんと十分に思い切り関わられたかなと思って、Sちゃんも嬉しそうにニコニコで遊んでいました	・カメラを持っていなかったことの影響 ・子どもと十分に関わることができた ・子どもの嬉しいような表情を見ることができた	・カメラを持つことからの開放感 ・子どもとの関わりへの充実感	カメラを持たずに子どもと関わることで、写真を撮影する必要もなく、子どもと十分に関わることができた。さらに子どもとの時間を共有でき、楽しそうに遊ぶ姿を見ることができた	
32	保育者B	電車が一番前だね。					

1. 撮影による記録を始めた時期

第1回目の12月6日のストーリーラインは以下に示した通りである。

限られた職員配置の中では、保育中に撮影することは難しい。時間的、体制上のゆとりがある場合は撮影ができています。撮影を意識することによって、子どもと関わりにくくなる。写真撮影による記録を意識することによって、子どもを見取る視点に影響、変化を感じているが、実際に子どもと関わりながら写真を撮影することはまだ難しい。また保育者間で撮影記録をもとに情報を共有したいが、保育体制上難しさがある。こうした中で記録を撮ることによる保育の質向上への効果、影響も感じている。以前の写真撮影は「アルバム用」として記録していたが、今回「面白いな」「こういう時はどうしたらいいかな」と考えながら撮影することで、子どもの姿の見取りの変化や、保育を改善する手立ての一環としての記録の効果、意義を感じている。

写真による記録を始めた時期では、子どもと関わりながら撮影をするという「保育と記録の両立」に難しさを感じていることがわかった。さらに、写真による記録を保育者間で共有していくためには保育者の職員配置などの保育園全体の体制が影響していることが示唆された。

また、調査協力園では、以前から写真による記録を行っており、各クラスにカメラが常備されていた。今回、保育カンファレンス実施のために写真による記録を依頼したことによって、これまではアルバムのための写真記録から、「面白いな」「こういう時はどうしたらいいかな」など子どもの遊びを見取る視点を持ち、子どもとの関わりや翌日以降の保育計画を考えるなどの保育に生かしていくためのきっかけになっていると言える。写真による記録に難しさを感じてはいるが、記録の効果や意義を感じていると言える。

2. 撮影による記録に対する葛藤

第2回目の1月10日のストーリーラインは以下に示した通りである。

写真記録の活用について、遊びの発展への可能性は感じているが、実際に行うことは難しい。写真記録を用いることによる日常の保育における遊びの発展はまだ難しいが、生活発表会等の行事への発展へはつながった。日頃からカメラを持つことを意識はしているが、保育の忙しさからかカメラを持つことを忘れてしまう。さらにカメラを持つと、写真記録を撮ることへの義務感に近いものが生じるのか、子どもと思いつき遊べないなどの影響がある。カメラを持たずに子どもと関わった際は、写真を撮影する必要がなかったため、子どもと十分に関わることができた。子どもとの時間も共有でき、楽しそうに遊ぶ子どもの姿を見ることができた。

写真による記録の可能性や、保育実践への効果を感じているが、「保育と記録」を両立することの難しさや実践していくことへの葛藤がみられた。こうした難しさを感じる中で、保育者は写真記録を参考にした遊びの発展や環境構成等の充実について検討しており、写真記録から得られた子どもの姿を生活発表会などの行事へつなげるよう活用していることがわかった。

また、カメラを持つことによって「写真記録による義務感」を感じるようになり、子どもたちとの関わりに影響を及ぼしていることがわかった。

IV. 総合考察

本研究では、保育者へのインタビューを通して、記録を撮ることのどこに困難さを感じているのかを明らかにし、保育カンファレンスを行うことによって、記録を撮ることに対する意識がどのように変容するのかについて検証を行なった。その結果、初期の段階では「記録を撮る」ことが、アルバムなどの記念に残すためのものから、子どもの姿を意識した記録に変化していることが分かった。その反面、保育を行いながら記録を撮ることによって子どもと関わりにくくなること、撮影に対する義務感等が生じることに困難を感じていることが明らかになった。「記録を撮る」と子どもと深く関わりながら遊ぶことのバランスに困難さを感じており、そのことが義務感の高まりに影響を及ぼしているように思われる。また、撮影記録の意義や保育の質の向上への効果について説明した上で撮影を依頼することによって、子どもの遊びを見て「面白いな」と感じる視点や「こういう時はどうしたらいいかな」と次の保育を検討する視点などのように、撮影記録に対する意識や子どもの遊びに対する見取りが変容していることも明らかになった。実践においては、保育者の役割として子どもと関わり、子どもが安心して安全に園生活を送ることができるよう援助していくことが求められる。こうした役

割に加えて、保育の質の向上が求められる今日において、保育記録を用いた実践に対する評価、園全体による組織的な保育カンファレンスによる評価の有用性が注目されている。

今回の結果と考察を踏まえ今後を見通すと、保育者は撮影記録による保育の質の向上への期待や効果を感じているものの、今後ともこの取り組みを継続して実施していくためには、園全体による勤務体制の整備が求められていることが明らかになった。保育者が負担感や義務感を感じずに、保育の質の向上させていくためには、記録方法、保育カンファレンスのあり方について、さらに検討していくことが必要だろう。また、記録を用いた保育カンファレンスを行うことによって保育者が自らの保育を省察し、評価できるようにするためには、園内における組織の整備のさらなる検討が求められると言える。

V. 参考文献

- ・大谷 尚 (2007) 4ステップコーディングによる質的データ分析手法SCATの提案－着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き－, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 第54巻 第2号, pp.27-44.
- ・大谷 尚 (2011) SCAT : Steps for Coding and Theorization –明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法, 日本感性工学会論文誌 第10巻 第3号, pp.155-160.
- ・吉村 香 (2011) 保育者の語りに表現される省察の質, 保育学研究 第50巻 第2号, pp.64-74
- ・香曾我 琢 (2014) 保育者の時間的展望の共有化と保育カンファレンス：伏線経路・等至性アプローチを用いた保育カンファレンスの提案, 宮城教育大学紀要 第49巻, pp.153-160
- ・保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会（第7回）(2019) 保育所における自己評価ガイドライン【改定案】
- ・文部科学省 (2018) 幼稚園教育要領
- ・文部科学省 (2018) 幼稚園教育要領解説
- ・厚生労働省 (2018) 保育所保育指針
- ・厚生労働省 (2018) 保育所保育指針解説
- ・内閣府 (2018) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領